

佳作

あつれいんすな

愛知県 岡崎市立梅園小学校二年 菱川 達生

「すみません。タコエギはどこですか。」

ぼくは、百円シヨップのてんいんさんに、大きな声で聞きました。

今のぼくは、どんな人にも話しかけたり、あいさつができます。でも、小さいころは、あいさつができませんでした。なぜかというと、はずかしいし、知らない人と話すのがわかったからです。

ところが、さいきんいつの間にか、自分からあいさつができるようになったことに気がつきました。

たとえば、さかなつりに行った時、ちかくの人がつたさかなを、

「何がつれたんですか。」

と聞くことができます。ぼくは、さかながとてもすきなので、ちかくでさかなを見られると、うれしい気もちになります。

スーパ―のおさかなやさんでも、お目当てのさか

なについて、自分でしつもんしたりできるようになりました。

また、山にクワガタムシをとりに行った時、クワガタムシをたくさんつかまえていた人に話しかけて、クワガタムシがいそうな場しょや、とり方のコツを教えてもらうことができました。そのあと、言われたとおりにやってみたら、本当にクワガタムシをつかまえることができました。

ぼくが、どうしてあいさつができるようになったのか考えてみると、たぶん六年生のおかげだと思います。

ぼくの学校では、まいあさしようこう口で六年生のかかりの人が、大きな声で元気よく、

「おはようございます。」

とあいさつをしてくれます。まいあさあいさつをしてくれるけど、ぼくはきんちようして、なかなかあいさつをすることができませんでした。

でも、一年生の三学きぐらいから、少しゆう気を出してあいさつをしてみました。すると、あいさつをしてみたら、とても気もちがいいことに気がつきました。そして、それからは、ぼくもまいあさじんをもってあいさつができるようになりました。

そんなぼくのへんかを、おとうさんとおかあさん

はとてもよろこんでくれました。そして、おとうさんとおかあさんがよろこんでくれて、ぼくもとってもうれしかったです。あいさつができるようになって、本当によかったなあと思います。

あいさつは、とても気もちがいいことだと思えます。あいさつはたったひとことだけど、あいさつをすることですくさんのことができるようになります。

ぼくはこれからも、あいさつをがんばりたいです。